
ぼくの名前はジョン

いちは

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼくの名前はジョン

【Nコード】

N0498M

【作者名】

いちは

【あらすじ】

ジョンと名付けられた犬の一人称小説。

ぼくの名前はジョン。

生まれてすぐについた名前じゃなくて、二ヶ月くらいして、ぼくの飼い主のケンジさんがつけてくれた名前だ。

ジョン。

ぼくは、他のどんな犬よりも、いっとう良い名前をつけてもらったと思う。

飼い主さんは呼びやすいし、ぼくだって聞きとりやすい。

ぼくは、ケンジさんに呼ばれたら、どんなところへだって行く。ずっと小さい頃、縁側から呼ばれて、ぼくが飛び移れないと、ケンジさんはぼくを抱きかかえてくれた。

朝の散歩は、眠そうなケンジさんを引つ張りながら歩いた。

夜は、ちよつと怖かったから、ケンジさんとペースを合わせた。

ご飯は、正直、ちよつとワガママを言いすぎたかも。

だって、カリカリのご飯はおいしくない。

時々もらえる、しつとりしたご飯がおいしくて、

だからカリカリはあまり食べないこともあった。

そんな僕を見て、ケンジさんは心配そうにぼくを撫でてくれたから、

ぼくはますます食べなくなった。

ケンジさんに撫でられたかったからね。

おすわり、ふせ、おて。

ぼくは何だって上手だったと思う。

だって、ケンジさんを好きだったから。

ケンジさんの喜ぶ顔が嬉しかったから。

ぼくが上手におすわりすると、ケンジさんは、
「おまえが1番だな」

そう言つて、僕を抱きしめてくれた。

ちよつと息苦しいくらいに強く抱きしめられて、
それがたまらなく嬉しかった。

最高に楽しかったのは、ケンジさんとケンジさんの家族とで旅行した時だ。

あたり一面が砂だらけで、初めてあんなにたくさんの水を見た。
ケンジさんが「ジョン、ウミだぞ」と言いながら、水の中に入つて行つた。

ぼくはありつたけの声を出しながら、ケンジさんを追いかけた。
夜は、ケンジさんたちから、おいしい骨をたくさんもらった。

長い長い夜を過ごしたつもりだったのに、朝はすぐにやってきた。

すごくすごく、楽しい時間を過ごしてきた。

そして、今ぼくは、2番という部屋にいる。

昨日は3番という部屋にいた。

一昨日は4番という部屋にいた。

それから、明日は1番という部屋に行く。

その次の日の部屋はない。

1番の部屋が、ケンジさんの言っていた「1番」とは違うことくらい分かつている。

「ねえねえ、やっと1番に行けるね」

「次はなん番かな？」

「広いところに行けるよ」

同室にいる仔犬たちが、嬉しそうにぼくに話しかけてきた。
ぼくは知っている。

1 番の次、ぼくたちは死ぬ。

天国があるんだとしたら、天国に行く。

もしかしたら、生まれ変わるのかもしれない。

ぼくは思う。

天国に行くにしても、ケンジさんを忘れちゃうのはいやだな。それから。

生まれ変わるなら、ケンジさんの弟に生まれたい。

また、撫でてもらいたい。

抱きしめられたい。

大きな声で、ジョンって、そう呼んでもらいたい。

ぼくは仔犬たちを怖がらせなくなかったから、ただただ黙って、昔のことだけを考えていた。

仔犬たちが、怖い思いをしませんように。

できれば、彼らがまた外の生活ができますように。

そしていつの日か、ぼくたち犬が、ずっと飼い主さんたちといられますように。

ケンジさん、寂しいよ。

ぼくたち犬は、人間を憎めないように生まれているんだ。

ケンジさん、大好き。

ぼくたち犬は、どんなことがあっても飼い主さんを大好きなんだ。

ケンジさん、ごめんなさい。

ぼくたち犬には、人間の事情なんて分からないんだ。

ケンジさん、ケンジさん、ケンジさん。

会いたいよ、会いたいよ、会いたいよ。

いつの間にか、ぼくは啼いていて、
それにつられたのか、仔犬たちも啼いていた。

近くにいた作業着の人がポツリと言った。

「この部屋まできた犬が、一番悲しそうに泣くんだよ」

ぼくは、ケンジさんと呼び続けた。

（後書き）

保健所に連れて行かれる犬の数は多いです。

炭酸ガスで安楽死、という生やさしいものではなく、実は苦しいとのこと。

実際に保健所に見学に行きましたが、日に日に番号の違う部屋へ移されて、

いなくなっていく仲間たちを見て、犬は徐々に自分の運命を悟るようです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0498m/>

ばくの名前はジョン

2010年12月30日07時09分発行